

<基本情報>

改組年度：令和7年度  
 改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）  
 設置等組織名：獣医学部グリーン環境創成科学科  
 入学定員：【R7新設】100名  
 所在地：神奈川県相模原市

完成した相模原キャンパスV号館



【支援1選定から現在まで】

- 2023.7.21 大学・高専機能強化支援事業支援1 選定
- 2024.6.21 グリーン環境創成科学科開設が決定
- 2025.4.1 **グリーン環境創成科学科開設（定員100名）**
- 2025.9 **相模原キャンパスV号館（グリーン環境創成科学科校舎）完成**
- 2025.9.6 学科開設記念式典および開設記念講演会開催
- 2025.9 V号館での授業開始

問題と課題

- ・ 気候変動が食料供給、生態系、水資源にもたらす脅威の増大
- ・ 2050年カーボンニュートラル（CN）の実現
- ・ レジリエンスの高い持続可能で健全な社会の実現

設置目的

イノベーションによる持続可能な食糧生産と地球環境保全の両立の実現のための人材育成

分野に対する社会的ニーズ

- ・ CNの実現に向けた専門技術者の育成
- ・ 農学系成長分野の志願者数の増加
- ・ 持続可能な食料生産

事前協議を反映

大学教育に対する社会的ニーズ

- ・ 産官学連携の教育体制の構築と高い教育効果
- ・ 企業や自治体などからの実務教員の招聘
- ・ 課題解決型学習（PBL）を取り入れた教育
- ・ 多様な人材の育成（留学生、女子、社会人など）

学科の教育体制と特徴

フィールドデータサイエンス

**デジタルトランスフォーメーション（DX）**により農業や自然環境の最適な保全・管理技術を開発  
 授業科目：データサイエンス、リモートセンシング、生態情報解析学など



環境リノベーション

生態系における物質循環プロセスの理解、新技術を用いた環境負荷低減や温室効果ガスの削減・転換  
 授業科目：分析化学、水環境創成学、物質循環学など



グリーンバイオ創成

微生物を対象としたバイオテクノロジーによる**グリーントランスフォーメーション（GX）**で温室効果ガスを削減・転換  
 授業科目：光合成化学、生物機能開発学、応用微生物学など



**DX, GXによる包括的アプローチ, PBL, 実務教員の招聘, 豊富な実習により高度な専門知識と実践力を養い, 持続可能な食料生産および脱炭素化社会の実現に貢献できる人材を育成**

2025年度の重点的な取組み

▶ 社会ニーズの把握、教育の充実

○人材ニーズに関する協議

- 新学科の教育内容に関係する4分野4企業と協議を実施。
- 農業系企業
    - ・ A社（2025.5月実施）
  - 建設系企業
    - ・ 東急建設株式会社（2025.6月実施）
  - 環境系企業
    - ・ B社（2026.1月実施予定）
  - IT系企業
    - ・ 株式会社パスコ（2025.12月実施）

○学生が取得可能な資格の整備

ピオトップ管理士2級（資格試験一部免除認定）、危険物取扱者（甲種受験資格）の資格が科目履修により取得可能になった。

⇒実務教員の招聘、PBLなどにより社会ニーズを反映した教育を推進（2026）

▶ 地域社会との連携

○市民向け講演会・地域イベントへの参加

相模原市の市民講座である「オーサーズカフェ」で学科教員が講師として講演（2025.6月）、相模原「まちづくりフェスタ」（2025.10月）にも学科として参加し地域連携の基礎を構築。

⇒地域での知名度向上、地域社会との連携を推進（2026）

▶ 教育・研究環境の整備

○研究教育棟の完成

学部の教育研究棟が完成（2025.9月）し、2025年度後期から講義・実習への使用を開始。現在は安全設備や学生の福利厚生のための設備・備品の整備を進めている。



○教育研究設備の充実

生物系実習に必要な教育用顕微鏡や遠心機・振盪機を整備、ラーニングcommonsや自習室の環境整備も進めている。



⇒設備の改善、利便性の向上をめざす（2026）

▶ 多様な入学者確保への取り組み

○広報活動

オープンキャンパス（3,7,8月）、学科教員による講演会（11月）、高校訪問（6,7月）による学科教育内容の説明、高校ガイダンスおよび出張講義（6件）、系列校の研究指導1件を実施。

○入学試験実績

学科開設時点で入学定員を確保。  
 2026年度入試は年内入試の志願者増加。  
 志願者14名（2025）⇒22名（2026）  
 女子特別枠（総合型選抜入試）の志願者増加。  
 志願者4名（2025）⇒5名（2026）（定員5名）

⇒広報の充実、さらなる受験者増加をめざす（2026）

## < 基本情報 >

改組予定年度：令和8年度  
 改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）  
 設置等組織名：環境学部  
 入学定員：【R8新設】204名  
 所在地：東京都豊島区

## < 特徴・コンセプト >

環境をテーマに、立教が150年間実践してきたリベラルアーツ教育、グローバル教育、リーダーシップ教育を発展させ、新学部を設置する。  
 環境問題はグローバルかつ分野横断的であり、社会全体にわたる取組が求められるため、**多様な関係者や専門家との科学的対話と協働を牽引し、社会変革にリーダーシップを発揮できる人材を養成する。**

## < 教育内容 >

- ・文理融合・リベラルアーツ教育

科学的に現象を理解し、コミュニケーションできる理系的素養の上に、データサイエンスも活用して社会の仕組みを理解し、リーダーシップを持って構想し、変革する力を育む。

- ・グローバル教育

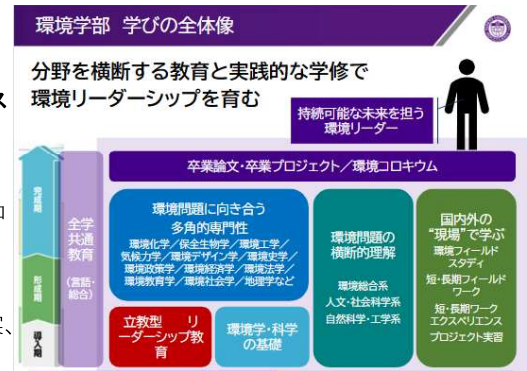
英語科目を充実させ、海外高校出身生に向けた教育プログラム「NEXUS Program」を実施し、**留学生の受入を推進する**。また、英国や豪州の大学との緊密な連携による留学プログラムを実施し、**海外での学びを充実させる**。

- ・社会連携を重視する実践的教育

構想段階から企業や自治体等と連携して教育課程を編成する。  
**国内外のフィールド（社会現場）における学修の必修化や、実務家教員による授業の充実、定期的な外部評価の検討を進め、社会の実情を踏まえた教育を展開する。**

## < 計画 >

教育実績と企業等との連携を活かし充実した教育課程を編成し、受験者層に対する客観的な調査分析と積極的な入試広報を行うことで、能力と意欲のある学生を受け入れる。加えて、社会連携を重視して企業等との互恵的関係を構築・強化し、管理・教育体制や教育・研究環境の充実、外部資金の獲得増加につなげる。



# 令和7年度における本学の取り組み

## 1 < 自治体・他大学・企業等の連携構築 >

- ・自治体との連携構築
- 1年次必修科目である環境フィールドスタディ科目の実施先を決定した。北海道日稜郡羅臼町、青森県つがる市、福島県双葉郡・相馬市、東京都23区、東京都多摩地区、長野県安曇野市・大町市、岐阜県郡上市、熊本県水俣市、長崎県対馬市。
- 事例紹介1 **長崎県対馬市**：フィールド教育の場としての受入体制、授業でのゲスト講師、イベント共催・登壇、共同研究・プロジェクトなどについて。
- ・他大学との連携構築
- 事例紹介2 **酪農学園大学**：令和7年2月：環境学分野における相互協力・連携に関する協定締結。令和8年1月10日と3月14日に環境学部および酪農学園大学農環境情報学類開設記念の合同シンポジウムをそれぞれで開催。
- ・関連各省庁・産業界各社等との連携構築
- 事例紹介3 **環境省**：インターンシップの受入、フィールド実習の協力について交渉中。

## 2 < WEBサイト更新、学部案内の作成 >

- ・環境学部の**特設WEBサイト**を随時更新し、広報活動を推進。
- ・環境学部の**学部案内**を作成。

## 3 < 開設前広報活動の展開 >

- ・関係校（立教池袋高校、立教新座高校、立教女学院、香蘭女学校等）への**学部説明会の実施**。各校とも説明会後は高校生・保護者より質問等も相次ぎ、環境学部に関心が寄せられていることが伺えた。
  - ・令和7年8月オープンキャンパスでの「**学部構想内容の説明会**」および「**環境学の学びの体験授業**」、「**個別相談会**」の実施
- 全プログラムを事前予約制とし、予約はすべて満席。参加した高校生からは、「興味が出た」、「もっと知りたい」、「ぜひ受験したい」等のコメントが見られ、宣伝効果があったと考えられる。

## 4 < 施設・設備関連 >

- ・**教育研究棟の新築**  
 新築工事 地上3階・約800㎡、令和6年4月～令和8年3月
- ・**環境学部共同実験室（教員用実験施設）の設置**



※立教大学環境学部WEBサイト<https://env.rikkyo.ac.jp/>



立教大学環境学部  
 WEBサイトはこちら



※教育研究棟完成イメージ

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度  
 改組内容：学部の新設  
 設置等組織名：情報社会学部情報デザイン学科  
 入学定員：【R6新設】102名  
 所在地：愛知県名古屋千種区



工学と文学を融合した「真の学際学科」を設置!!

実践的な授業でICTスキルを身につけ、  
 種々の社会課題を解決していくための  
 工学を活用した情報をデザインできる  
 人材を養成

改組後の教育内容

1.基礎から応用まで幅広く学ぶICTスキル

情報をデザインするために必要なICTスキルを基礎から学びます。  
 文系・理系問わず対応できる学びのプログラムで、卒業までに高度で専門的なスキルを修得します。

2.アイデアを実現させるデザイン思考と表現力

ビジネスや社会問題に対するアイデアを生み出すための創造性と表現力を学びます。情報の扱い方を理解することで、コミュニケーション力や問題解決能力を備えます。

3.デジタルアーカイブを活用して社会と連携

歴史文書や文化遺産などの知的資源をデジタル化して記録・整理・保管する技術を学びます。図書館・博物館・地域ボランティアなどと連携しながら、地域社会を支える人材を育成します。

申請要件の内容

②学生確保の見直し

東海エリアの高等学校に入学意向調査を行った結果、入学定員を上回る学生確保が可能であると結論付けました。

③学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び入学選抜の適切性  
 「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の3つの領域を設定。入学選抜については、「知識・技能」を中核的な資質・能力として設定。

④特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育環境の整備

最先端のデータサイエンス、AI、情報処理技術の利活用、文化財や歴史的遺産の電子的アーカイブに関する知識と技術を修得するための科目、及びプロジェクト型の多様な演習科目を配置。新校舎の建設やメディアラボの整備を予定。

⑤実務経験のある教員等による授業科目の配置

実務経験のある教員等による授業科目を複数配置し、非常勤としてICT系企業の社員を講師として招聘。

⑦具体的な人材ニーズの存在及び地域における特定成長分野を必要としている企業との事前協議

人材のニーズについてアンケートを行い、135社から398名以上の採用意向の回答を得ました。また、企業人の外部評価委員から「情報デザイン学科」についても意見を聴取しました。

⑩外部資金の獲得

大学全体の外部資金獲得額の申請時点の平均(過去5年間の中央値3年分の平均)は130,151千円であり、科研費獲得額は近年上昇しています。

⑫自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と実施、多様な入学確保に向けた取組

他大学や自治体と連携した「あいちワークショップ・ギャザリング」を実施しており、情報技術とデザインに関連したPBLを行います。また、他大学との単位互換事業を実施しています。多様な入学の確保については2024年度から入試方式の見直しを行います。



令和7年特に力を入れて実施した取組・整備状況

【授業運営】社会課題を情報技術で解決する人材の育成  
 地域連携授業（1年生必修：前期）

- ✓ 必修科目「ファーストイヤーゼミ」で名古屋市教育委員会の職員や司書とともに、大学近くに新設される星ヶ丘図書館の在り方を考えるワークショップを実施した。

企業連携授業（1年生必修：後期）

- ✓ 必修科目「基礎演習」で（株）デンソーとの連携授業2年目。
- ✓ 企業が社会課題の解決に取り組む際の手法を学び、在学中の研究活動や卒業後の社会で必要なスキル・センスを涵養する。
- ✓ 情報技術による身近な社会課題（災害情報、オーバーツーリズム、若者の政治参加、デジタルデバイド、労働力不足）の有効な対策をグループで提案。協働性・思考力・判断力を高めつつ、情報収集や調査計画などアカデミックスキルを学び、データに基づいて実現可能性を議論。
- ✓ ポスター発表では、授業担当以外の教員や、企業、高校生が加わり、社会課題解決方法の議論を行う。

ものづくり・分析手法授業（2年生必修：通年）

- ✓ ものづくりとデータ収集・分析の手法の基礎の習得をめざす。
- ✓ 情報処理演習A（クエリ）：昨年整備した機器を用い、電子工作、デジタル工作、ロボットプログラミング、映像制作を通してデジタルコンテンツ制作技術を習得し、アイデアソンを通じて技術の社会利用の可能性や技術利用による自己表現について考える。
- ✓ 情報処理演習B（リサーチ）：科学的研究方法（実験法／質問紙法／観察・面接法）・計画的に進めるためのトレーニングを行う。

【環境整備】学修成果の可視化  
 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

- ✓ 2025年申請・認定
- ✓ リテラシーレベル（全学部全学科）
  - ・「AI・データと社会」（1年選択オンデマンド授業）
  - ・2024年取得1年34名/2025年取得見込み1年65名2年19名
- ✓ 応用基礎レベル（情報デザイン学科）
  - ・4科目：「AI・データと社会」（1年選択）／「情報基礎数学」（1年必修）／「データ分析入門」（1年必修）／「データサイエンス入門」（2年選択）
  - ・2025年取得見込み36名/76名

【高大連携】高校生への情報理解を促す  
 学習支援体制の整備

- ✓ 課外：ロボットプログラミング等、高校生を対象としたワークショップ開催を目指した学生チームの組織づくりと教育プログラムの開発・実施。
- ✓ 夏期講座：プロジェクトマッピング、3Dプリンティング、DTFプリンティング実施。
- ✓ 高校出張講義：データサイエンス、情報工学、博物館情報学、教育工学などをテーマに高校に情報提供。

【入試改革】  
 一般入試に数学型・国語型を導入

- ✓ 本学個別学力検査に加え、共通テスト併用や利用入試において科目数を拡大し、基礎学力の担保を目指す。

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度  
 改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）  
 設置等組織名：情報工学部情報マネジメント学科  
 入学定員：【R6新設】90名  
 所在地：福岡県福岡市



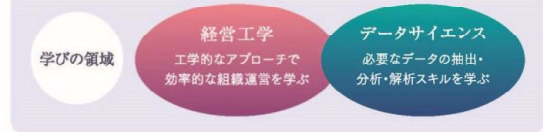
<情報マネジメント学科の特徴・コンセプト>

経営工学×データサイエンスで社会を変える  
 課題解決エンジニアを育成

組織がもつ情報を活用し、ビジネス上の課題を数理的なアプローチで解決・効率化する「経営工学」。そこに数学やプログラミングの技術でデータを分析する「データサイエンス」を掛け合わせ、根拠を持って社会に幸せな変化をもたらすことができる課題解決エンジニアを育成します。

<情報マネジメント学科の教育内容>

- 01 デジタル時代のビジネスをリードする専門的な学び  
 「経営工学」と「データサイエンス」は深く関わり合っています。その両方を専門的に学ぶことでさらに理解を深め、ビジネスに活かせる応用力や解決力を身につけます。
- 02 地域や企業・自治体と連携した実践的な学び  
 修得した知識・技術を実社会で応用する実践的な学修として、地域・企業・自治体と連携したPBL（課題解決型学習）を実施し、マネジメント力や課題解決能力を身につけます。
- 03 世界で活躍するグローバル人材を育成する  
 世界に求められるデータサイエンティストを育成するため、国内外のゲスト講師による講義や海外研修などのグローバルプログラムを取り入れ、グローバル人材を育成します。



<申請要件>

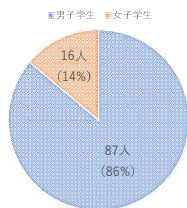
- ②十分な学生確保の見通しを備えた計画  
 ⇒進学意向調査結果：入学定員90名に対し、入学意向1,127名【回答者全体7,953名に占める割合14.2%】 【2023年6月認可：収容定員の総数の増加】
- ③産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成、学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜の実施  
 ⇒3つのポリシー（DP、CP、AP）に基づき、学修目標の具体化、体系的な教育課程の編成ならびに入学選抜が実施できる体制を構築している。
- ④特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備  
 ⇒「ITスキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材を養成する」という教育研究上の目的に基づき、適切な管理・教育体制を構築し、教育研究環境を整備している。
- ⑤実務経験のある教育の配置計画  
 ⇒実務経験のある専任教員を複数配置（さらにクロスアポイント制度を利用し企業の技術顧問として実務に就く教員も配置）
- ⑦地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等との事前協議  
 ⇒地元民間企業とFintech分野でのAI・データサイエンスを中心とした教育内容を協議 ※Fintech＝金融（Finance）＋技術（Technology）の造語
- ⑩大学全体の外部資金獲得計画  
 ⇒令和9年度までに寄附金、研究費等の外部資金を年間で243,000千円獲得する計画である。（申請時の平均獲得金額から10%拡大）
- ⑫自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施  
 ⇒近隣自治体（古賀市・新宮町等）との連携PBLや海外協定校（タイ・キングモンクット工科大学）との相互派遣プログラムの実施
- ⑫多様な入学者の確保に向けた取組  
 ⇒多様な入試制度を実施（一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、有資格者選抜、帰国子女および国際バカロレア資格取得者選抜等）

学科の新設に係る各種取組み状況について

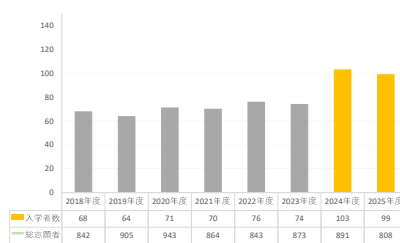
<R6年度 新設学科状況>

情報マネジメント学科：志願者数808名、入学者数99名 **2年連続定員充足**

入学男女比率（2025年度）

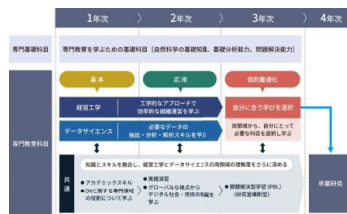


当該学科の学生推移



個別最適化するカリキュラム

- ～特徴～
- 「経営工学」「データサイエンス」「共通科目」の3つの科目分野を設置  
 一学びを関連付けながら理解を深める
- 3年次には「経営工学」「データサイエンス」の領域から必要な科目を自在に選択して学ぶことができる



<施設環境整備>

講義の自動収録・アーカイブ化を実現

- [主な取組]  
 ハイブリッド授業の実質化等、学内における教育DXの推進を目指して・・・  
**講義収録配信システム Panopto の導入**  
 ⇒教員がカンタンに**授業の収録・編集・配信**が可能に
- 教員に負担をかけずに講義動画の作成・配信が可能に！  
 ⇒学生の**学びの振り返り**を促進

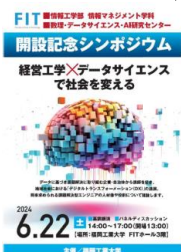
[フェーズ3 整備状況]

- 無線映像投影機器、AV機器一式管理システムの導入  
 ⇒授業内外において、学生のAI高度化に資する支援ツールを活用し、**自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材の育成**を目指す



<開設記念イベントの開催>

2024年6月22日（土）**情報マネジメント学科の開設記念シンポジウム**を開催



- 基調講演**  
 「経営工学×データサイエンスで社会を変える」
- パネルディスカッション**  
 「地域社会におけるデジタルトランスフォーメーション」  
 「将来求められる課題解決型エンジニアの人材像と役割」



- [パネリスト]
- ・データサイエンス関連企業  
 （大手流通関連企業、地場金融関連企業）
- ・行政（福岡市観光文化局）
- ・福岡工業大学 情報工学部長



基本情報					
改組予定年度	令和8年度	設置等組織名	国際共創学部 国際共創学科	入学定員増数(合計数)	150名
所在地	東京都武蔵野市	改組内容	学部の新設(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)	入学定員減数(合計数)	30名

<社会や地域のニーズ・課題>

- 脱炭素事業を通じて地域における社会課題の解決(地域社会の活性化)を自治体や企業において主導できる**グリーン・トランスフォーメーション(GX)**人材の育成。
- 企業や自治体のDX化を推進する上でビジネスサイドとデータサイエンティストサイドの両方の考えを整理し翻訳できる**ビジネストラנסレーター**の育成。
- 宇宙システムを用いた環境モニタリング等を通じて**防災・減災に貢献する人材**の育成。

<連携を通じた教育体制の整備>

- 自治体等との連携:**東京都武蔵野市、北海道帯広市、連携協定締結大学**との連携協定に基づくフィールドワーク科目を設置。  
地域の社会課題の解決に向けて現地の人々との交流・協働を通じて考察する。
- 外部機関との連携:**国際協力機構(JICA)**との連携による海外派遣プログラム、**国立極地研究所**との連携協定による環境教育を推進。

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>

- 持続可能な地球・社会の実現に向けて、**環境、地域、文化**を**理論と実践**の両面から学び、**グローバルとローカル、文系と理系の複眼思考**を持って**社会課題の解決に他者と協働して果敢に挑戦する人材**を育成。
- 「国際共創学科」の1学科から構成され、その下に「**国際日本学専攻**」、「**環境サステナビリティ学専攻**」の2つの専攻を設定。
- 「国際日本学専攻」では、「**文化学**」「**地域学**」等を基盤分野とし、日本と世界をつなぐ文化の交流・多様性、さらにグローバル化する日本の地域の諸課題、日本語教育等について多角的に学ぶ。
- 「環境サステナビリティ学専攻」では、「**環境学**」「**地理学**」等を基盤分野とし、地域や社会と協働する環境科学的な学びを軸とする。

<多様な入学者の確保>

- 女子学生の確保**:「環境」「サステナビリティ」「国際理解」「SDGs」等に関心のある女子生徒を対象とした講演会・イベント、女子高校・女子中学への出張授業等を実施。
- 地域の初等・中等学校との連携**:ユネスコスクールネットワークを活用した出張授業や武蔵野市教育委員会と連携した小学生向けの「地球温暖化教室」を継続・発展。
- 留学生の受け入れ**:英語による授業科目を多数設定、国際日本学専攻を中心に日本文化を海外へ発信、留学生を呼び込む独自の入試方式を導入。

国際共創学部 国際共創学科

文系と理系の枠を超えた複眼思考

グローバルとローカルの連関を捉える複眼思考

理論と実践を往還する複眼思考

① 確かな専門性を身につける2つの専攻

国際日本学専攻

- 【学びのキーワード】
- 国際日本学 ●生活文化 ●比較美術
  - ポップ・カルチャー ●地域創生
  - 共生社会 ●東京・武蔵野論 ●日本語教育

環境サステナビリティ学専攻

- 【学びのキーワード】
- グローバル経済空間 ●サステナブル観光
  - 気候変動 ●地球・宇宙環境
  - 環境データサイエンス ●防災・減災

② 国内外の地域で実践的に学ぶフィールドワーク

③ 世界とつながるグローバルコミュニケーションカ

④ Society 5.0時代の必須スキルデータ分析・活用カ

⑤ 各年次に演習科目を配した成蹊伝統のゼミ教育

<教育内容・育成する人材像>

- グリーン(GX)・デジタル(DX)**人材の育成につながる、**環境学、地理学、地域学、フィールドワーク、データサイエンス・統計学**をはじめ、国際社会で活躍するための**英語力修得**のための教育課程を編成。
- 自治体、外部機関、他大学等と連携**したプロジェクト型授業やフィールドワーク実習を展開するほか、環境計測、気象衛星データや地理情報システムの利用など、**地域や世界の自然・社会環境を地理学的手法や数理科学的手法**で学修。
- 専攻間の垣根を越えて興味・関心に応じて自由な科目選択が可能。
- 知識と思考力(Critical Thinking)、表現力と発信力(Communication)、チームワーク力と実行力(Collaboration)の3つ力を育む。

令和6年度までの主な取組

●北海道帯広市(9/2)及び国際協力機構(JICA)(12/4)と協定を締結

帯広市と連携協定を締結。国際共創学部等において帯広滞在型のフィールドワーク授業を展開します。JICAと「教員候補者推薦に関する協定」を締結。実務家教員による海外フィールドワーク授業を展開します。

●国際共創シンポジウム「南極・北極から考えるSDGsと国際共創」を開催(12/21)

本学において、日本極地研究振興会理事長の藤井 良一氏、国立極地研究所助教の磯野 靖子氏を講師に招いて国際共創シンポジウムを開催しました。本学学生・高校生・地域住民など約50名の参加がありました。会場入口には南極の氷や実際に観測隊が着用した防寒具等を展示しました。

●国際共創学部特設Webサイト、学部紹介動画、パンフレットの作成

特設Webサイトでは国際共創学部の紹介動画をはじめ学びの特色やカリキュラム等の詳細を掲載しています。



帯広市との連携協定調印式



国際共創シンポジウムの講演

令和7年度の主な取組

●国際共創学部に関する記者説明会・懇談会を開催(6/5)

東京商工会議所ホール&カンファレンス Room B2・B1に於いて、国際共創学部の学びの特色や今後の取組についての紹介を中心とした記者説明会・懇談会を開催しました。

●DXハイスクール採択の東京都立小平高等学校への出張講義を実施(6/18)

「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に令和6年度採択された東京都立小平高等学校の1年生を対象に、「探究とはなにか」を生徒が考えるための講演」をテーマに出張講義を行いました。

●高校生対象の環境サステナビリティ学専攻ミニ講義①を開催(6/28・29・30)

テーマ「サステナブルな地域づくりを考える：つながる経済、広がる未来」

●オープンキャンパスで学部ガイダンス&模擬講義を開催(8/2・3・4)

模擬講義テーマ例:「地球と宇宙の天気」、「チリはヤマとなるのか?」、「What is culture?」等

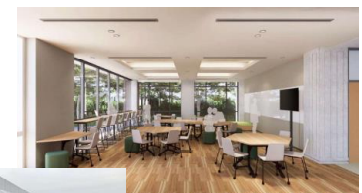
●高校生対象ミニ講義②&AOマルデス入試ガイダンスを開催(9/13)

テーマ「天気でタイムトラベル!江戸と東京の気候のひみつ」

●国際共創学部の教育・研究の拠点「西1号館」を大幅改修



オープンキャンパスでの模擬講義



(上) 西1号館1階学生ラウンジイメージ図



(左) 西1号館屋上太陽光パネル

<基本情報>

改組予定年度：令和7年度  
 改組内容：既存学部における学科の新設  
 設置等組織名：理学部情報数理学科  
 入学定員：【R7新設】60名  
 所在地：東京都千代田区

<新設の特徴・コンセプト>

数学をベースとして、統計・データサイエンス（DS）、  
 情報を学び、それを生かして新しい価値を創造し社  
 会の課題を解決する能力を備えた人材を育成する。

【理学部】

数学科（120名）

（括弧内は入学定員）

東京紀尾井町キャンパス

情報数理学科（60名）

埼玉坂戸キャンパス

数学科（60名）

学生確保の見通し

- アンケートによる需要調査を実施予定
- 現在の数学科の学生においても、AIやDS等  
 応用への強い指向
- オープンキャンパス、サマースクール、出張講義等  
 でさらなる需要を喚起

入学者選抜

- 数学と情報の融合的課題の出題
- 情報・統計の資格の評価等

大学独自の仕組み

- 数理・データサイエンスセンターを2021年4月に設置
- 全学へのDS教育を展開、応用基礎レベルの講義も開設

理学部情報数理学科  
 （東京紀尾井町キャンパス）

<改組後の教育内容>

- ・数学系科目群
- ・統計・DS系科目群
- ・情報系科目群
- ・教養科目 ⇒ 人文・社会・自然科学について幅広い視野を培う
- ・課題解決ゼミナール  
 ⇒ 実社会のデータを用いてPBL形式で課題解決に取り組む
- ・卒業研究



東京紀尾井町キャンパス3号棟

・教育体制・教育環境

⇒ 実務家教員も基幹教員として配置  
 都心型キャンパスを生かした近隣企業・官庁でのインターンシップ、近隣企業からの講師  
 招聘、統計数理研究所等外部機関との連携、校舎の建て替え

・実務経験者による授業科目の配置

⇒ 実務家教員による課題解決ゼミナール等の実施

・人材ニーズ・事前協議

⇒ 「情報数理学科人材育成懇談会」（設置予定）産学官からの委員から編成  
 人材像・教育課程の検討、産学官との連携の窓口

・他機関との連携

- (1) 統計数理研究所が実施している文部科学省「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」  
 プロジェクトに参加するとともに、同研究所と教育研究面における連携強化に向けて具体的  
 な方向を探る
- (2) 企業、自治体、他大学のデータサイエンス系学部・学科等との連携  
 ⇒ 紀尾井町AI・データサイエンスコンソーシアムを構築

外部資金の獲得

- ・科研費等外部資金獲得に向けた学内環境を整備
- ・2022年度の科研費獲得額は5年前より50%増

首都圏におけるAI・  
 データサイエンスの  
 ひとつの拠点に

紀尾井町AI・データサイエンス  
 コンソーシアム



本事業で本年度に特に力を入れて実施した取組や特徴ある取組

情報数理学科設置・増員

・情報数理学科設置記念式典開催

2025年4月1日に理学部情報数理学科が設置され、6月8日に本学紀尾井町キャンパス1号棟ホールにて設置記念式典を開催した。

・増員届出

情報数理学科の入学定員を60名から80名に増員する変更届を2025年8月29日に文部科学省に提出した。

近隣大学・自治体・企業連携

・近隣大学との連携

2025年1月15日に、お茶の水女子大とデータサイエンス教材利用に関する協定を締結し、連携を進めている。

・千代田区との協定の締結

2025年5月7日に、紀尾井町キャンパスのある自治体である千代田区と「デジタル分野における連携・協力に関する協定書」の締結式を、千代田区役所において挙行政した。

・近隣自治体・企業とコンソーシアム設置

2025年6月2日に、近隣ICT企業8社と千代田区と紀尾井町AI・データサイエンスコンソーシアムに関する協定を締結した。コンソーシアムのWebページを作成し、公開している。



インターンシップ科目準備

・インターンシップ科目実施検討

企業・自治体でのインターンシップを科目として単位認定するための条件、実施方法等に関する検討を進めている。

・インターンシップ先との調整

東京近郊でのインターンシップ先の核となる紀尾井町AI・データサイエンスコンソーシアムメンバーの企業を中心に、実施内容について協議している。また、地方での実施に向け、東京圏外の11社の企業、11の県庁から、インターンシップ先として学生を受け入れるという内諾も得ている。

教育・研究環境整備

・教員増員

2025年10月に助教（任期無し基幹教員）を1名増員した。

・紀尾井町キャンパス3号棟増築工事

既設の老朽化した紀尾井町キャンパス5号棟を解体し、現存の3号棟を増設する形で既存の施設からのアクセスを良くし、情報数理学科で利用する講義室、セミナールーム、研究室等を整備し、教育・研究の環境を整えるための施設整備を実施している。既に5号棟の取り壊しの工事が進められている。また、増築部分の外装、内装についても、業者とつめている。



2028年度完成予定

改組予定年度：令和8年度

改組内容：学部の新設

設置等組織名：デジタル共創学部

デジタル共創学科

入学定員：【R8新設】100名

所在地：群馬県前橋市

前橋市はデジタル田園都市国家構想拠点としてデジタルグリーン・シティ構想を展開しており、群馬県はデジタルイノベーションとグリーンイノベーションの加速化を掲げる。これに並走し、デジタル技術を活用して、他者と共にWell-Beingな社会を創造できる人材を育成するため、入学定員100名、収容定員400名からなる「デジタル共創学部」を令和8年度に開設するため準備を進めている。

様々な問題を抱える現在の社会では、一つの分野の知識だけでなく、複数の分野の知識を集約し、課題の解決や価値の創造をめざしていくことが求められている。こうした社会の軸となるのが、他者と協働して価値を創造していく「共創」と、情報通信技術（ICT）により、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」であると考えている。

「めぶく。プラットフォーム」による産学官連携、各自治体や企業との協働による実践型PBLの実施や実務家教員の登用、ジェンダートラック解消プログラムの展開、SSH指定校等の初等中等教育とも連携する。

社会課題を発見・設定し、  
デジタル技術を活用して、  
他者と共にWell-Beingな社会を  
創造できる人材を育成



育成する人材

構想の背景

前橋市

- デジタル田園都市国家構想type1・2・3によるデジタルグリーン・シティ構想
- スマートシティ推進企業の流入

群馬県

- デジタルイノベーション加速化
- グリーンイノベーション推進
- DXとサステナビリティ実現の街構想
- 食料品の製造業出荷額順位2位

全国

- DX人材/GX人材ニーズ

デジタル共創学部のカリキュラム

全学共通科目	学部共通科目	モジュール科目例
<ul style="list-style-type: none"> <li>●外国語</li> <li>●共愛コア</li> <li>●Glocal</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MIDA</li> <li>●キャリア</li> <li>●演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●DX モジュール</li> <li>・DX 事情</li> <li>・データサイエンス実践</li> <li>・インターネット</li> <li>・デジタルイノベーション論 等</li> <li>●マネジメント モジュール</li> <li>・ビジネスモデル論</li> <li>・マーケティングリサーチ</li> <li>・サービスサイエンス 等</li> <li>●食・健康・暮らし モジュール</li> <li>・ウェアラブルテクノロジーとヘルスケアデータ解析</li> <li>・フードデータサイエンス</li> <li>・環境データサイエンス 等</li> <li>●ICT モジュール</li> <li>・データ構造とアルゴリズム</li> <li>・コンピュータグラフィックス</li> <li>・サイバーセキュリティ 等</li> </ul>
<p>専門科目（モジュール）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●【必修】DX モジュール</li> <li>●【選択】興味あるモジュールを選択</li> </ul> <p>選択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントモジュール</li> <li>食・健康・暮らしモジュール</li> <li>ICT モジュール</li> </ul> <p>※モジュール：1つのテーマで分けられた授業科目群</p>		
<p>Issue-Based Research Project PBL (卒業研究)</p>		

興味に合わせてモジュールを選択

デジタル時代の共創人材

養成する人材像：デジタル技術についての見識を活かし、他者と共にWell-Beingな社会を創造できる人材の養成

ICT	マネジメント	食・健康・暮らし
 <p>デジタル技術の発展・開発等</p>	 <p>デジタルで様々な問題を解決する人等</p>	 <p>食や健康をテクノロジーで支える人等</p>
<p>DX：デジタル技術推進の学び</p>		
 <p>データサイエンスやAI デジタル技術を使って新しいことがしたい！</p>	 <p>ビジネスの効率化を考えた！</p>	 <p>最新技術にも食・健康にも興味がある！ 環境について知りたい！</p>



## <基本情報>

改組予定年度：令和7年度  
 改組内容：学部の設置（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）  
 設置等組織名：環境共生学部環境共生学科  
 入学定員：【R7新設】120名  
 所在地：兵庫県西宮市



## <新設学部のコンセプト>

**自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性になる！**  
 身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今さまざまな環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育成します。

## <教育内容>

### 冒険、発見、学び、発信

周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。



## <申請要件>【特色】

- 十分な学生確保の見通しを備えた計画  
 → 本学既設の工学分野を有する学部・学科の入学志願状況を踏まえ、**工学分野への女子学生の進学ニーズ**を把握。今後、保護者、高校・予備校関係者、高校生を対象にアンケート調査を実施するとともに新学部構想を周知すべく各種メディアにおいて広報活動を展開。
- 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえた学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成、入学者選抜の実施等に係る計画  
 → **フィールドワーク**や企業等と連携した課題解決型の**社会連携プロジェクト科目**を1年次から順次展開。  
 一般選抜や学校推薦型選抜のほか、確かな学力と多様な資質を持った受験生を受け入れる**多面的評価入試（MUKUJO未来教育総合型選抜）**を実施する。
- 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画  
 → 自然環境や環境整備保全関連施設の観察を通して独自に問題点や課題を設定して学習設計を行う。  
 新設する「**プロジェクトルーム**」での共同作業や研究室を巡る**ラボローテーション**を通じて実践力を養う。
- 実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画  
 → **バイオマス発電**や**新素材開発経験**、野生生物の生態調査といった領域において企業等で実務経験のある教員を複数配置する。
- 社会において具体的な人材ニーズが現に存在、又は、十分な見通し  
 → 今後、成長が期待される環境分野で専門性を備えた課題解決力で社会貢献できる人材の育成を目指す。設置構想について地域の酒造メーカー等と協議。
- 寄附金、研究費等の外部資金獲得に係る計画  
 → **科研費の採択件数拡大**のため、補助金申請に精通した専任教員が講師を務める「**KAKEN塾**」を学内で開講。  
 その他、若手・女性研究者の支援や**組織横断型研究プロジェクト**を形成し、大型研究費の獲得を目指す。
- 自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画  
 → **奈良女子大学と連携**して工学分野についての単位互換や授業科目の共同開設、共同研究や共同FD、教員や学生の交流を推進。  
 多様な入試制度の実施と学内施設（保育ルーム、国際寮）の整備  
**【特色】 JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム選定事業を活用した女子生徒向けの探求心の養成と理系進路選択促進の取組を実施。**  
**さらなる連携先の強化・拡大**

## 令和7年度 他機関との連携を通じた教育体制整備の取り組み

### ○奈良女子大学との連携事業



### ○他機関との連携事業

- ・ 学外実習（フィールド・環境施設実習）  
 国立環境研究所琵琶湖分室  
 ひょうご環境創造協会  
 兵庫県環境研究センター  
 グッドホールディングス株式会社
- ・ 安全講習会の実施  
 モンベル社

### ○社会連携プロジェクト（1年後期 必修科目）





## 【基本情報】

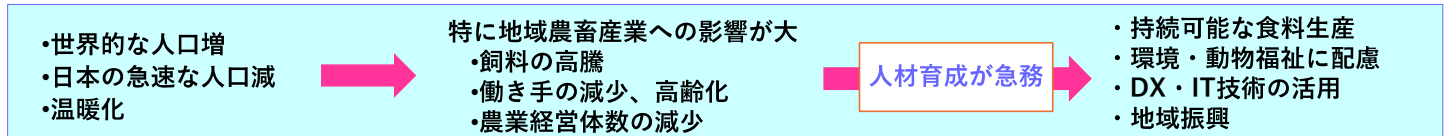
改組予定年度	令和8年度
改組内容	既存学部における学科の新設 (当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)
設置等組織名	農食環境学群農環境情報学類
入学定員	【R8新設】80名
所在地	北海道江別市



## 【設置学部等の概要・コンセプト・特徴】

農環境情報学類は、北海道という農業・環境の先進地をフィールドとして、農学、環境学、情報学の分野を融合した学びにより、さまざまなデータを価値のある「情報」へと変換して地域社会の発展に活かせる人材＝「情報の力(チカラ)」で地域の未来をつくる人材を養成する。本学類での学びを通じて修得した知識・技能・姿勢は単なるICTやDXの導入にとどまらず、**既存技術の枠にとらわれない視点で情報を活用した技術の再考(再発見)を促す**。また、**新たな地域資源の掘り起こしや地域課題の解決にも積極的に取り組む力を養う**。これにより、**持続可能な地域社会の新たな形を創造(デザイン)し、次世代を支える農業、環境、地域社会の発展に寄与することを目指す**。

## 【社会や地域のニーズ・課題】



## 【養成する人材像】



“北海道”が学びのフィールド  
＝最前線の地域課題に向き合うことができる

- ・多様な農業の動向と課題
- ・豊かな自然環境や人との共生の課題
- ・特色ある地域社会とその課題

- ▶ **専門的な能力**  
情報を活用した農・環境分野の専門的な知識・技能の修得
- ▶ **情報を活用する力**  
データの収集→分析→評価→活用を一貫して学ぶ
- ▶ **実践する力**  
現場を経験し、幅広い視野による深い理解と実践力を修得

### ①情報を活用して地域と農業をデザインできる人材

情報を収集し、農業・食料・農村の実態を把握し、農業経営や地域農業の特徴を分析、その情報を活用しながら現場との密接なコミュニケーションを図り、地域社会を振興する方策を企画・提案することができる人材を養成

### ②地域の問題を主体的に解決できるデータサイエンティスト

先端技術によって環境に関する実態を把握することができ、画像解析や数理的な分析で問題を可視化し、その情報をもとに現場との密接なコミュニケーションを図り、地域課題を解決する方策を企画・提案することができる人材を養成

## 令和6・7年度の主な取組

### (1)自治体・他大学・企業等の連携構築

#### ①連携の強化

既存学類の教育プログラムでJ Aきたそらち(深川市)、J A夕張市(夕張市)、J Aきたみらい(北見市)、J A十勝池田町(池田町)、(株)風の村(江別市)、University of Malaysia of Sabah(マレーシア)ほかと実習等を実施し、良好な連携関係を維持・強化した。

#### ②連携協定の締結

立教大学と環境学分野における連携協定、デラバル株式会社と包括連携協定を締結。海外では、University of Jember(インドネシア)と協定締結に向けた準備を開始。

#### ③新たな連携の構築

R7年度に、株式会社クボタ・株式会社北海道クボタ、別海町ほかと包括連携を締結。また、同年度設立の「江別市スマート農業ネットワーク」に参画、江別市の農業や地域の課題解決に直結した実践的な研究を進めていく。



北海道江別市「スマート農業推進検討事業」資料

### (2)募集広報活動

#### ①農環境情報学類教員の教育・研究活動を紹介するWebコンテンツの作成

大学HP、夢ナビ講義Video、Instagram、X(旧Twitter)、Facebookに掲載

#### ②CM動画の作成

大学HPに掲載及びテレビで放映

#### ③Web広告の作成

Google、P-max、YouTube、Instagramに広告を掲載

#### ④リーフレットの作成

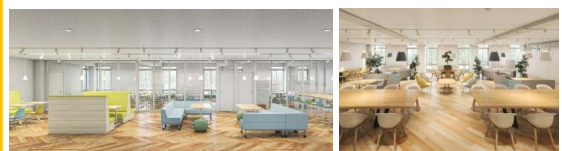
オープンキャンパス、高校で配布、DMによる配布



### (3)教育研究環境の整備

#### 既存講義棟2棟を改修

農学系分野の特色を活かした教育環境とラーニング commonsを備え、学生の可能性を引き出すことができるように配慮した新しい講義棟を整備



新講義棟ラーニングcommonsのイメージ図

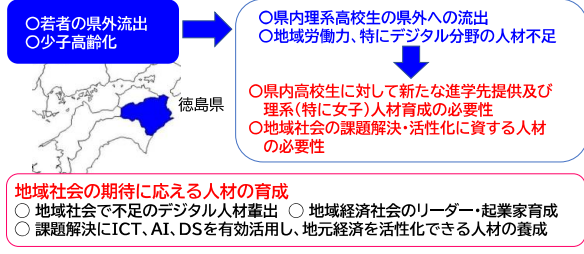


事業計画名 四国大学デジタル創生学部 デジタル創生学科設置計画

基本情報

Table with 6 columns: 改組予定年度, 所在地, 設置等組織名, 改組内容, 入学定員増数(合計数), 入学定員減数(合計数)

【社会や地域のニーズ・課題】



デジタル創生学部 デジタル創生学科 新設
データサイエンスと情報技術を核に、デザイン思考に基づくアプローチや学際的な知識を融合した学びを通じてデジタル革新を推進し、成長産業と地域活性化に貢献

【育成する人材像】
現代社会において活躍するための基盤となる力を身に付け、情報科学と経済・経営的思考を併せ持ち、デジタル技術やICTを活用して地域や社会の課題解決や新たな価値の創造による活性化に貢献できる「実践的デジタル人材」

【多様な入学者の確保】
・学生確保のため、高大接続入試・分野別入試・自己実現入試に加え、当該学修に必要な能力等を重視した入試科目や理系女子増の支援策導入を検討・実施
・県内外高校への訪問及び出張講義の一層の充実やDXハイスクール指定校との連携を図ると共に、女子学生の当該学部在籍割合4割以上を目標とし、進学相談及び就職相談等の促進策を企画
・連携海外大学、社会人対象のIT人材確保・育成のプログラムを開発(自主事業、リスケリング人材育成受託事業)

【教育内容】

特徴ある教育課程
文理融合の実践型教育
知識と技能を程良くバランス
地域社会ニーズに対応
将来の進路を意識した学び
先端的技術・最新知識の導入
時代を先取りした教育内容
社会・地域ニーズに沿った科目の展開
4年次: 応用分野の実践研究 (IoT, AI, ドローン, MR/映像, DS実践)
3年次: 応用分野の基礎学習 (DS応用)
2年次: 産業理解と準備学習 (DS基礎)
1年次: 基礎分野 (DS入門)

【連携を通じた教育体制の整備】

四国大学 デジタル社会連携協議会
・協定締結の大学や高校等との有機的教育連携体制を構築するとともに、地元自治体、関係省庁や企業等も加わった“学部の内容・実績の検証、そして発展支援”を目的とする“連携協議会”を設置し、運営する
(学長主催)
●連携協定大学等
・デジタル・工学分野で連携: 徳島大学、徳島工業短大、阿南高専、神山まるごと高専、大原成蹊大学等
・AI・DS等で連携: 香川大学等
・IT技術者養成等で連携: 国立バキスタン科学技術大学等
●自治体・関係省庁・企業等
・DX推進、IT人材育成・実務家教員派遣、共同研究等で連携: 経済産業省四国経済産業局、総務省四国総合通信局、徳島県庁、県内市町村とくしま産業振興機構、徳島経済研究所、日亜化学工業、AVAD、レーザーシステム、日本IBM、Plus W社等
●高等学校
・学校訪問及び出張講義の充実: 徳島県内高校 (DXハイスクールを含む)、学際領域学科指定校等

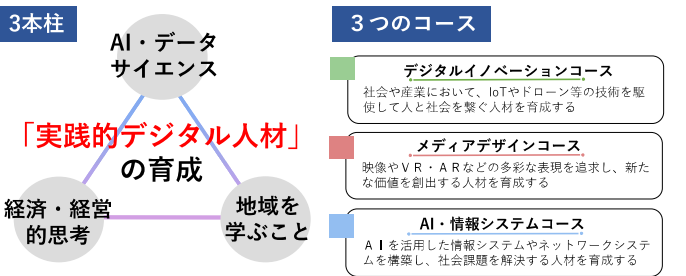
卒業生が拓く未来像
進むデジタル社会への対応
地域産業の変革に対応
データサイエンス
ICT, 生成AI, VR/AR, Drone
新たな産業創生の要
生活を便利に

特に力を入れて実施した取組や特徴のある取組

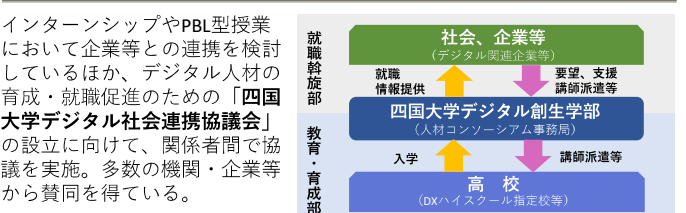
01 デジタル創生学

経済・経営の理論を基盤に持ちつつ、デジタルを媒介に社会変革を実装する新たな学際的分野として、「デジタル創生学」という学問領域を掲げ、学位の名称を「学士(デジタル創生学)」と定めた。既存の情報科学・社会科学・データサイエンスの知見を統合しつつ、地域社会の現場において課題を的確に捉え、そこから新たな価値や仕組みを共に創り上げていく「実践知」に重点を置いた教育・研究を行う。

02 3本柱と3つのコース



03 企業や自治体との連携



04 女子枠入試の導入

地域におけるデジタル分野での女性活躍促進のため、「女子枠入試」を導入。女子枠で合格し、入学した者には、入学後に「四国大学デジタル女子特別奨学金」を給付する。

05 教育・研究環境の整備

デジタル創生館及びアリーナの建設
【アリーナ】スポーツ、モーションキャプチャ、映像収録・配信、ドローン飛行などに活用
【デジタル創生館】講義室、ゼミ室、実習室、共同研究室のほか植物工場を整備

その他、学生受入体制強化のため、既存の講義室等の改修工事を実施。

06 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに認定

令和7年8月26日、本学が全学的に実施している『四国大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム』が、文部科学大臣より「リテラシーレベル」に加えて「応用基礎レベル」として認定を受けた。



事業計画名 岡山理科大学「新しい未来を切り拓く“探究心”あふれるデジタル人材育成事業」				
基本情報				
改組予定年度	令和7年度	設置等組織名	①生物地球学部恐竜学科 ②通信教育部情報理工学部情報理工学科	入学定員増数(合計数) 275名
所在地	岡山県岡山市	改組内容	①既存学部における学科の新設(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの) ②学部の新設(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)	入学定員減数(合計数) 45名

<社会や地域のニーズ・課題>

Society5.0の実現には、高度な情報技術を基盤とする新たな価値の創出と、持続可能で強靱な社会への変革が求められる。しかし現状では既存の枠組みでの取組に留まり、イノベーションの創出には繋がっていない。**俯瞰的な視野で物事をとらえ、探究的な活動によって課題を解決し、未来を切り拓く人材、生涯にわたり学び続け社会の変化に対応できる人材等、変革を担う人材の育成が課題である。**

<設置学部等の概要・コンセプト・特徴など>

俯瞰的な視野で物事をとらえ、探究的で深い学びにより未来を切り拓く人材を育成するために、**生物地球学部恐竜学科**を設置する。また、Society5.0で求められる高度な情報技術を身につけ生涯にわたり学び続ける人材を育成するため、**通信教育部情報理工学部情報理工学科**を設置する。

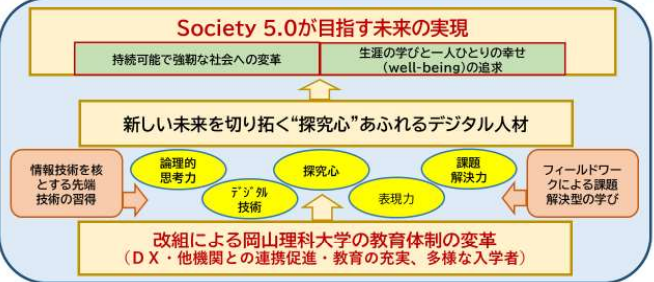
- ①生物地球学部恐竜学科の特徴  
恐竜・古生物学コースにおける10年間わたる教育研究の実績に基づく知の集積とフィールドワークの実践による**探究的な学び**及びフィールドワーク(フィジカル)とデジタル技術(サイバー)の融合による課題へのアプローチ
- ②通信教育部情報理工学部情報理工学科の特徴  
時間と場所の制約のない通信教育によって、情報技術の基礎から応用まで、**社会人の学び直し**等多様なニーズに応える**最新プログラムと実践的な学び**

<教育内容・育成する人材像>

- ①恐竜学科の教育内容と育成する人材像  
地質学・古生物学的見地に加え、生理学、生態学、機能形態学、解剖学などといったミクロからマクロレベルまでの生物学的見地に基づき、**デジタルデバイスを活用した教育**  
↓  
**生命と地球環境の変遷を俯瞰的に理解し、顕在化する生物多様性の喪失及び地球環境や自然災害に対する問題について、知識と技能を未来へ応用できる探究心あふれる人材**を育成する。
- ②情報理工学科の教育内容と育成する人材像  
DXによる地理的・時間的制約のない自由な学習環境のもと、情報システム分野、AI技術分野、デジタルメディア・ゲーム分野、ビジネスデータサイエンス分野の4分野にわたる体系的な教育  
↓  
**情報技術を核とする数理的な知識・技能を身につけ、情報を活用する分析や映像などによる表現を行うことのできる探究心あふれる人材**を育成する。

<連携を通じた教育体制の整備>

- ①恐竜学科で整備する連携体制  
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所との連携を通じたゴビ砂漠での恐竜化石発掘や化石標本に基づく教育の推進体制整備。地域の博物館における展示開発や教育活動、保存技術の研究など地域貢献を目的とした連携体制の整備。
  - ②情報理工学科で整備する連携体制  
県内18大学で構成する**大学コンソーシアム岡山**による**大学間連携**を活用し、他大学が提供する特色ある科目を対面やインターネット経由で受講する「単位互換科目」、地元岡山の産業界との連携により社会と密接なテーマを学ぶ「コーディネート科目」等、多彩な科目を受講するための体制の整備。
- <多様な入学者の確保>
- ①恐竜学科  
恐竜学博物館への地域の学校の招待、中学校職場体験の受け入れ、出張講義の実施により探究心をはくぐみ、科学に対する興味・関心の喚起を促す。社会人入試や留学生入試により、進学率に強い関心をもつ国内外の学習者を受け入れる。古生物分野に特化した国際的な学生交流を導入する。
  - ②情報理工学科  
ビジネスに必要な情報技術を学ぶ意欲のある社会人を中心に多様な学習経路や職業歴を持つ学生を広く受け入れる。また、海外に在在したままの学位取得を可能とするため、諸外国の教育機関との連携を強化し、海外在住の学習者を確保する。



支援1 岡山理科大学 令和7年度(1年目)の取り組みと特徴



生物地球学部恐竜学科 (入学定員 45名)

▶ 恐竜・古生物に強い関心を持つ53名の学生を迎えることができた。(定年退職後に入学した社会人経験者2名;留学生1名を含む)  
⇒ **多様な入学者の確保**

▶ 「モンゴル恐竜学概論」「古生物学概論」「古生物学基礎実習I」において、恐竜・古生物学研究の最前線について講義を行い、この中でデータの収集法と活用法、デジタルデバイスの利用方法を紹介した。  
⇒ **デジタルの活用**



恐竜学博物館での新入生による化石クリーニング体験



“成羽魚竜”発見報告会



丹波産地での「古生物学基礎実習I」(丹波市山南町)

▶ 新規導入したマイクロX線CTスキャナーの活用事例を紹介するとともに、丹波産化石産地周辺において1年生を対象とした実習を実施し、学習および研究への意欲・関心の向上を図った。⇒ **教育研究環境整備と特色ある教育**

▶ モンゴル科学アカデミーとの共同調査で発見した恐竜化石をもとに、岡山理科大学恐竜学博物館において一般を対象に普及活動を実施した。  
⇒ **海外との連携**

▶ 恐竜学科での学びを活かせる企業3社に対し、求める人材像についてヒアリングを行った。また、古生物系博物館2館の学芸員より博物館が求める人材像、ならびに展示制作や保守管理などの博物館事業に係る業務内容及び関連企業について助言を得た。⇒ **連携を通じた教育体制の整備**



恐竜学博物館におけるサイエンススクエア(岡山理科大学附属高校)



岡山北公民館のみなさまを対象とした恐竜学普及講演会



恐竜学科で新規導入したマイクロX線CTスキャナー(Burker社SKYSCAN 1273)の説明会



【通信】情報理工学部情報理工学科 (入学定員 200名 2年次10名 3年次20名)

▶ 全入学者のうち、社会人入学者は3割を占める。春学期の修学状況を比較すると、社会人受講者がより真摯に学習に取り組み、単位を取得している。  
⇒ **多様な入学者の確保**



▶ ウズベキスタン共和国デジタル技術省及びジャパン・デジタル・ユニバーシティ(JDU)と、ICT教育の発展に関する覚書を令和6年8月に締結した。海外連携協定校と国内の学生募集により、137名の学生を迎えることができた。(ウズベキスタン40名、その他海外12名、日本85名)  
⇒ **多様な入学者確保、海外との連携**

▶ 多様な入学者に対応するための入学前教育としてVODコンテンツ(動画111本)を作成。「基礎数学」「基礎英語」「コンテンツインターフェイス」のほか、海外居住者を対象とした「理系用語解説」「日本の文化」を開講。  
⇒ **多様な入学者への対応、デジタルの活用**

▶ 会議室を改修して整備した収録室及び編集室を活用し、1年次開講の35科目のVODコンテンツ(動画2,880本)を作成。現在は2年次開講の22科目(動画1,980本見込)を作成中である。



オンデマンド教材の収録室

▶ 授業用VODコンテンツの作成開始前に、オンライン授業における著作物の適切な取扱い、アナウンサーを迎えての話し方セミナーなどの教員に向けたFD活動を行った。⇒ **オンライン授業の質向上**

▶ 通学課程の情報理工学部や工学部の学生17名が、動画チェック及び動画編集等の教材制作補助員(アルバイト)として活躍している。



学生による動画チェック

▶ DX人材の養成を目的に英数学館高等学校との高大連携協定を令和7年7月に締結。令和8年4月より、高校生が通信教育部のコンテンツを科目等履修生として視聴する。⇒ **DXハイスクールとの連携**

▶ 令和7年3月Ainy合同会社と講師派遣の協定を締結し「アニメーションデザイン」を、一般財団法人両備ハッピーライフと新たに連携し「簿記基礎」を開講。⇒ **産業界と連携したカリキュラム開発**



<基本情報>

改組予定年度：令和6年度  
 改組内容：学部の新設  
 設置等組織名：データサイエンス学部データサイエンス学科  
 入学定員：【R6新設】80名  
 所在地：山口県下関市

【特筆すべき内容と評価された点】

○申請要件③  
 社会のニーズを踏まえたカリキュラムを設定し、それに対応できる学生を確保するための入試方法を設定している点

データサイエンス学部データサイエンス学科 新設

設置構想に関する事前協議

・2020年、下関市が設置した「下関市立大学新学部設置に関する有識者会議」がデータサイエンス学部設置を適当と答申

企業からの高い人材ニーズ

・企業調査を実施（2022.12～2023.1）  
 ・23/箇所（89.8%）が「本学が養成する人材の社会的ニーズが高い」と回答、うち174箇所（65.9%）が採用意向あり

十分な学生確保の見通し

・高校2年向け調査を実施（2022.11～2023.1）  
 ・回答78高校のみで入学定員を上回る入学希望「合格した場合、入学したい」126名>定員80名

養成する人材像<特徴・コンセプト>

多様なデータを設計・分析・活用するために必要な数理統計・情報学・社会科学に関する理論と実務に習熟することにより、社会や組織が抱える課題の解決や新たな価値の創造に貢献する人材を養成



地元企業との連携

YMFG 山口フィナンシャルグループほか  
 協定 2022.10  
 市大 協定 2023.2  
 下関商工会議所

- ・実務家による講義
- ・PBLの実施
- ・データ提供による研究推進 など

外部資金の獲得

科学研究費補助金の獲得額の増加等により総額30,000千円を目指す

現在平均 23,936千円  
 2027年度(令和9年度) 30,000千円

社会のニーズを踏まえたカリキュラム等

専門基礎	専門応用	適切な教育体制・教育研究環境
データサイエンスに関する数学や情報、プログラミングに関する基礎知識を修得したうえで、統計的分析手法や人工知能を含むアルゴリズムに関する幅広い知識とデータ分析・活用の技能を身につける。 線形代数、解析学、アルゴリズム論、データサイエンス入門・演習、回帰分析、定量的データ解析、人工知能概論、データ分析演習 など 科目例	ビジネス又はヘルスケア分野のデータの分析を学び、実社会で活躍するための実践的な知識を修得する。 ビジネスデータサイエンス 科目例 経営情報概論、情報システム論、経営情報システム論、E-コマース論、オペレーションズリサーチなど ヘルスデータサイエンス 科目例 保健医療学概論、疫学・公衆衛生学概論、遺伝学概論、感性データ処理、薬理学概論、医療健康情報学など	・講義のほか、実習、アクティブ・ラーニング型科目、演習科目やプロジェクト型学習科目を配置 ・新校舎建設による教室や研究室の確保・充実 ・高性能パソコン等の配備 多様な入学者の確保 ・女子学部生が地元高校等を訪問し、理系学部の魅力等を紹介 ・高校訪問や出張講義の実施
基盤教育・教養教育		
●外国語 ●リベラルアーツ ●下関学 ●キャリア教育 ほか		

※経営コンサルティング（事業戦略立案・企業変革）やデータサイエンス・DXプロジェクトの経験を有する実務家教員による授業科目を配置  
 ※上記に対応できる学生を確保するため、大学入学共通テストで外国語・数学を必須とし、個別学力検査で小論文（前期）、数学（中期）を課す

2025年度取組状況

事業経過

Ph	年月	内容
1	2021.11	下関市が2つの学部を設置することを市議会で報告
	2022.04	下関市立大学に新学部設置準備室を設置
	2023.03	データサイエンス学部設置認可申請
2	2023.09	データサイエンス学部設置認可
	2023.11	データサイエンス学部の新校舎 完成
		新校舎 設備備品等購入設置開始
	2023.12	
	2024.03	新校舎 竣工式
3	2024.04	データサイエンス学部開設（1年生88人入学） 基幹教員17人中15人着任 
	2024.10	データサイエンス学部 開設記念シンポジウム 日時：2024.10.12(土)10時～/会場：本学B講義棟 次第：主催者あいさつ、来賓あいさつ 記念講演（滋賀大学 竹村彰通学長） パネルディスカッション 参加者：170人 
	2025.04	データサイエンス学部 2期生（80人入学） 基幹教員17人全員着任

多様な入学者の確保に向けた取組

- 地域の高等学校・中等教育学校との連携
  - 山口県立下関西高等学校（スーパーサイエンスハイスクール）  
2025.07 出張講義  
講義テーマ：「データを科学する～統計学とデータサイエンス～」  
高校2年生約80人に対し、統計学やデータ解析とは何か、解析時の注意点などを講義。
  - 山口県立下関中等教育学校（DXハイスクール）  
2025.08～11 5回生(高2)に指導を実施  
探究型学習である海峡学（卒業研究）において計4回指導を実施。  
5回生（高2）4人に対し、調査や観察方法、論文をまとめる力、表現する力について指導。
- リメディアル教育の実施（継続）  
文系理系を問わずデータサイエンスに興味や関心、学ぶ意欲のある入学者を確保し、学生がデータサイエンティストとして必要な能力を身につけるため、基礎となる数学や情報（プログラミング）について、リメディアル教育を実施。
- 女子学生の確保に向けた取組（継続）  
オープンキャンパス（2025.08）において「理系女子（リケジョ）相談コーナー」を設置。データサイエンス学部の女子学生4人が「どんなことを勉強するの?」「どんな大学生活を過ごしているの?」といった質問や相談に学生目線からアドバイス。

区分	定員	合格者のうち女子の人数		入学者のうち女子の人数
		2024年度入試	2025年度入試	
学校推薦型選抜	30人	7人	16人	23 (26%)
一般選抜	50人	20人	24人	32 (64%)
入学者	80人	23/88人	32/80人	

年度	プログラム	参加者数
2024	下関商工会議所主催「DX人材・成功事例を知る DX先進視察ツアー」で本学を視察。学部説明と教員紹介、意見交換等を実施。	28人
2025	「長州デジタル人材×企業誘致」プロモーション事業（山口県主催）への参加（8月～1月）	-
	2026年度から実施するPBLについて企業と継続協議中。（9月～）	-
	地元企業との接点創出事業について計画進行中。情報交換や交流による産学連携を促進。企業が抱える課題解決に向けた共同研究やPBLのほか、インターンシップ受入による高度産業人材の育成・確保に繋げる。（2026年2月を予定）	-



事業計画名 DXを通して健康スポーツ社会を実現する「亜細亜大学健康スポーツ科学部」設置計画

基本情報

改組予定年度	令和8年度	設置等組織名	健康スポーツ科学部	入学定員増数(合計数)	100
所在地	東京都武蔵野市	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	0

健康スポーツ社会の実現と発展に資する「健康スポーツDX人材」の育成

【社会や地域のニーズ・課題】

Well-being向上

健康スポーツ産業、市場の拡大

デジタル社会

DX対応人材

- 人々のwell-being向上および多種多様な社会課題解決に貢献し得る健康スポーツ産業は、今後ますます発展していく領域である。
- 健康スポーツ及び経営に関する素養に加え、**様々なデータを取得・分析・活用できるスキルを備えた、数字かつICTに強い、DXに対応可能な人材の需要がさらに高まる。**

健康スポーツ及び関連産業への応用

- 健康スポーツDXを活用したスポーツビジネスの展開
- スポーツDXコンソーシアム構想

地域住民の健康増進、コミュニティの活性化

- 地域住民の健康増進施策、運動・スポーツ実施率の向上
- 健康スポーツDXを活用した地域コミュニティの活性化

PBL

【設置学部等の概要・コンセプト・特徴など】

文理融合型教育

健康スポーツDX人材育成拠点

地域住民の健康増進拠点

健康スポーツDXによる地域貢献

- 健康スポーツ産業の発展において不可欠な『**健康スポーツDX人材**』の育成に取り組み、当該産業及び関連産業の発展に資することができる人材養成を目指す。
- 工学**の学修を前提として、複数のカメラ映像から人の複雑な動きの解析や身体機能の強化・障害予防といった**スポーツ科学**の学修に加え、**スポーツビジネス**も学修する**文理融合型教育**を行う。
- 最新機器を導入**したトレーニング実習室、スペースが必要な身体運動を行える多目的実習室を備えた『**実験実習棟**』を**新設**する。同施設は地域住民にも一部開放し、『**地域住民の健康増進拠点**』とする**構想**があり、地域に根ざした施設整備をする。
- 地域住民に対して、健康スポーツDXを活用したテラーメイド型健康運動プログラムの提供や運動指導を行うなど、**教育研究の成果を地域社会へ還元**する。

【多様な入学者の確保】

高大接続強化

女子比率向上

- 入試における女子枠の創設、男女の教育機会均等を図る奨学金制度改革など、**女子学生比率の向上と優秀な女子学生の確保のための募集広報を展開**する。
- 近隣の高校と高大連携協定を結び、本分野に興味関心のある学生が本学部で学べる体制を整える。また、学校推薦型選抜や総合型選抜を活用し、**普通科以外のコースで学ぶ高校生や修学意欲の高い者も積極的に採用予定**である。

【連携を通じた教育体制の整備】

産学官連携

- 自治体、企業からの講師派遣による特別講義やスポーツ経営にDXを活用させている現場を体験する実習科目など、**自治体・産学連携を通じた教育体制を構築**する。
- 最新設備を備える施設とデジタル技術を活用し、楽しみながら学ぶ体験型教育プログラムなど、**初等中等教育との教育連携事業**を図る。

【教育内容・育成する人材像】

理論×実践

- 基礎理論から実験・演習、自治体及び企業連携を利用した学外実習へと移行し、**理論と実践を融合した体系的なカリキュラムを編成**する。
- デジタル技術を活用した新たな運動・スポーツプログラムの開発、運動・スポーツ実施機会の創出に係る人材、ヒトの行動のデジタル化や生体情報を科学的に分析できる人材を育成する。

令和7年度までに特に力を入れて実施した取組

◆ 実験実習棟の計画・設計、DX教育拠点としてのハード・ソフト両面の整備

- 実験実習棟の計画・設計 (R9竣工予定)
- 数理系科目の導入教育の実施
- 情報工学科目の強化

- ・最新機器を整備し、理論と実践の統合的学びを実現する、実験実習棟 (R9竣工予定)の詳細な計画・設計を進めた。
- ・すべての入学予定者に対して数理系科目の導入教育環境(入学前教育におけるオンラインAI学習)を整備した。
- ・プログラミング・AI活用・データ解析等の情報工学科目を拡充し、カリキュラムにおける工学的素養の向上を強化した。



実験実習棟完成予想図 (左：外観 右上：トレーニングルーム 右下：多目的演習室)

◆ 女子比率向上・高大連携・学部周知の強化

- 女子比率向上策
- 入試制度の新設
- 高大接続の推進
- 学部広報・動画発信

- ・受容性調査の結果等を踏まえ、「女性人材育成型」総合型選抜を令和8年度に新設した。
- ・岩倉高校・堀越高校との高大連携協定や出張授業により、体系的な高大接続を推進した。
- ・特設サイト・紹介動画・実験実習棟3DCG動画を制作し、周知を強化した。
- ・授業で導入予定の映像分析アプリやVRゴーグルの体験ブースをオープンキャンパスにて設置した。



学部キービジュアル



オープンキャンパスの様子

◆ 産学官連携・実践的学びの推進

- インターンシップ・企業等との連携
- 自治体連携

- ・東急スポーツシステム株式会社と協議を重ね、令和10年度のインターンシップ開講を準備した。
- ・Bリーグチーム「立川ダイス」との協働で、プロスポーツ現場でのボランティア活動等、実践機会創出に取り組んだ。
- ・武蔵野市・日の出町などと連携し、地域課題に基づく教育研究体制を強化した。

基本情報

改組予定年度：令和6年度  
 改組内容：学部の新設  
 設置等組織名：情報数理学部情報数理学科  
 入学定員：【R6新設】80名  
 所在地：神奈川県横浜市戸塚区

多様な入学者の確保に向けた取り組み

- 高校生、企業を対象としたアンケートを実施し、事業に対する高い需要と期待の確認
- オープンキャンパス、One Day Campus、高校訪問による学生確保のための具体的な取り組み
- 文系コースの生徒も視野に入れた入試体制
- これからの活躍が期待される情報系女性技術者の育成のため、女子学生の割合が比較的多い本学の強みを活かした、理系の女子学生を増やす取り組み

教育の特徴

- **数理的理解力**  
 数学的素材で組み立てられた情報科学分野の速い変化に対応できる、数理的理解力を身につける教育
- **高度ICTの活用**  
 数理科学を基礎教養とした情報科学を学び、これからのコンピュータやAIで何が出来るかを知る教育
- **社会とのつながり**  
 実務経験のある教員による授業を配置し、情報倫理に配慮した情報・数理科学と社会との接点や連携を強く意識させる教育
- **国際社会での活躍**  
 修得した高度ICTのスキルを国際社会で活かし、世界から情報を得て、自らも発信することができる教育

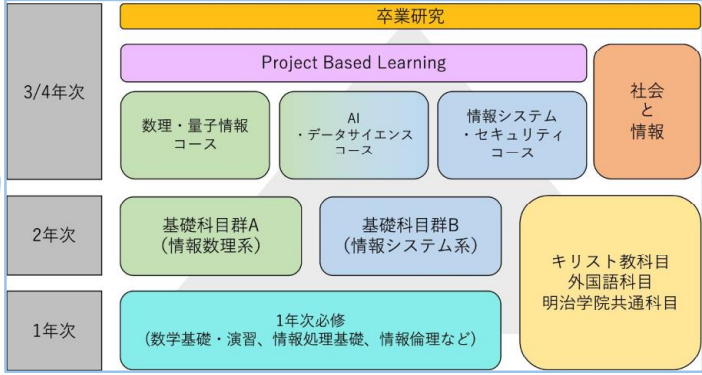
カリキュラムの特徴

- 数学を重視した充実の基礎教育
- 学生の志向や卒業後の進路に合わせて、「**数理・量子情報コース**」、「**AI・データサイエンスコース**」、「**情報システム・セキュリティコース**」の3コースを設定
- 自大学以外の機関との教育連携も視野に入れた「**Project Based Learning (PBL)**」によって、自ら問題を解決できる力を養う
- 「**社会と情報**」科目群では、情報科学と人間、社会、企業との結びつきを意識した学びを提供

養成する人材像

- 情報科学の急速な技術革新に対応できる**数理的理解**に基づいた応用力・問題解決能力を身につけ、**自らの専門性を広げていく**ことができる人材
- 人とAIが高いレベルで共存する近未来において重要となる**高度情報通信技術(高度ICT)**を**活用し**、**国際的なリーダーシップ**を身につけた人材
- 多様な学問領域の存在を意識し、明治学院大学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”を情報科学の技術や知識を駆使して実現することができる**高い倫理性**を持った人材

カリキュラムマップ



学内外との連携強化

- 特定成長分野の人材を必要としている複数の企業と構想の事前協議
- 学内の研究拠点となる「情報科学融合領域センター」を設置し、既存文系6学部の人文科学・社会科学における蓄積を活かした連携体制を構築
- 設置学部のカリキュラムをベースとした文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」への申請
- 学内外での共同利用も可能な大型計算機設備(大規模言語モデルなどのオンプレミス利用を想定)を備えた新校舎の建設
- 新校舎を中心とした横浜キャンパスの再開発と教育の質向上
- 産学官連携も含めた外部資金獲得増をめざす



2025年度の取り組み

◆ 情報数理学部認知拡大のためのWebサイト充実・デジタルメッセージの配信

2024年度よりランディングページを作成し2025年度はより内容を充実 2025年度はデジタルメッセージを配信



◆ オープンキャンパスでの広報活動  
 学科紹介と模擬授業の実施&学科イベント



情報数理学科イベントで、1年生と2年生が来場者からの質問に答え、情報数理学部の魅力を紹介!

◆ 高校への出張授業の実施

- 2025/9/8 横浜翠陵高等学校 永田毅教授
- 2025/9/19 白百合学園高等学校 加堂大輔准教授
- 2025/10/25 横浜女学院高等学校 太田和俊教授

◆ Math Forum(数学生徒研究交流会)での基調講演

小串典子准教授  
 @SSH横浜サイエンスフロンティア高等学校

明治学院大学オープンキャンパス開催  
 8月2日・3日@横浜校舎、8月22日・23日@白金校舎